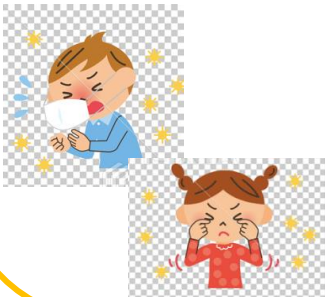


子どもの花粉症

2月中旬から花粉症で受診するお子さんが急増しています。季節ごとに飛散する花粉は異なります。2月～3月はスギ、3月～5月はヒノキ、5月～9月はイネ科の雑草の花粉が飛散します。現在はスギ花粉によるものですが、四国の今シーズンのスギ花粉の飛散量は前シーズンと比較して2倍強と非常に多い予想になっています。

子どもの花粉症の発症年齢は年々低年齢化しており、2～3歳でかかることも珍しくありません。**子どもの花粉症と鼻かぜとを見分けるポイントは、目や鼻のかゆみを伴うかどうか**です。また、**晴天の日や風が強い日に外出したときに症状が悪化する場合も花粉症が疑われます**。花粉症の治療は大人と変わりません。抗アレルギー薬や抗ヒスタミン薬の内服薬や点眼薬を使用します。症状が強い場合はステロイドの点眼薬や点鼻薬を併用することもあります。

- 一般的なケアとして、
- ①外遊びのときはナイロン製のウインドブレーカーを着用、室内に入る前には頭や衣服についた花粉を取り除くようにしましょう。
 - ②帰宅後は、手洗い、洗顔をします。洗顔後は花粉による皮膚炎を予防するために保湿剤を使用しましょう。
 - ③2018年より5歳以上の子どもに対して**舌下免疫療法**が保険適応になりました。長期治療が必要となりますが、発症予防の効果があります。最寄りの耳鼻科にご相談ください。



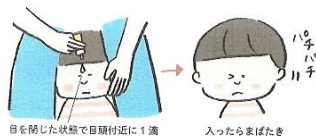
～子どもの目薬の使い方～

<乳幼児の場合>

膝枕であおむけにします。目を閉じた状態で目頭付近に1滴入れた後に、まばたきをさせます。嫌がるようなら下まぶたを引っ張りながら目の中に入れます。泣いて難しい場合には、寝ているとき(熟睡しているとき)に入れてください。

<年長児の場合>

頭を少し後ろに傾けて座らせます。下まぶたを引っ張り、その上にのせるように入れます。



～親子で遊ぼう～



今年度はたくさんの触れ合い遊びを紹介してきました。触れ合うことで、楽しみながら親子の信頼関係を築くことができ、同時に子どもたちの力も高めていきます。忙しい毎日のほんの少し。時間を見つけて続けてみませんか？

2月の感染症情報

嘔吐を伴う感染性胃腸炎、アデノウイルス感染症、突発性発疹症などが散発的にみられるのみでした。相変わらずインフルエンザの発生はありませんでした。

2月のご利用状況

2月の利用延べ人数は39名、1日平均利用人数は2.1人でした。年齢別では、1歳児が15人(38%)で最も多く、次いで2歳児の10名(26%)の順でした。疾患別では、発熱を主な症状とする急性上気道炎がほとんどでした。下肢痛のため歩行障害をきたした2歳のお子さんの入室がありました。2月中旬よりスギ花粉のお子さんが増えました。子どもは自分の症状を正確に訴えることができないので、周りの大人が気づいてあげることが大切です。